

名前:

昨今、インターネット技術の発展は目ざましい。インターネットを利用することができれば、テレビや新聞などから得られるものをはるかに上回る量の情報を手に入れることができるのは確かである。しかし、私は、仮に全ての人が同等にインターネット技術を楽しむことが可能だとしても(つまりデジタルデバイドの問題を克服したとしても)、なお新聞や雑誌の必要性を感じている。

理由としてまず挙げられるのは、流動的かつ莫大な量であり、匿名性の高いことが特徴とされるネット上の情報に対して、新聞や雑誌の情報は、印刷物であるがゆえの安定性、非匿名性を備えていることである。情報量もネット上の情報に比べるとはるかに少ないものである。このような印刷物上の情報は、出版者の意思が働いて取捨選択されたものである、とする批判もあるであろうが、インターネットという莫大な情報にあふれた海から、一つ一つの情報を拾い上げていくよ

りも、たとえ特定の人々の意思が反映されているにしても限られた、しかも安定した情報を手に入れることの方が、個々人への負担は小さくて済む。実際問題として、ごく普通の人々がネット上から適切な情報を拾い上げていくのは極めて困難なのである。

上記の理由とも関わることであるが、ネット上では情報の取捨選択に失敗して"ネットサーフィン"に陥ることもしょくないだろう。人々はこうした作業においてもはや情報をおぼえているのではいのかかもしれない。私自身経験したことだが、ネットを始めると時を忘れてのめりこんでしまう。明らかに新聞や雑誌などを読むときとは異なる感覚である。ネットの特徴としては情報の"双方向性"ということを指摘されることも少なくないが、この特徴も含めて、ネットに人々が陶酔するという状況が生み出されているにすぎないと考えるのである。もちろん、新聞や雑誌同様に、情報を求める人々もいるであろうが、多

くの人、このまうにネットに陶醉している
のではなうか。ごく普通の人々が情報を得る
ためには、だれか別の人に取捨選択されるこ
とが必要だと思ふ。